



Title	ライトセンサスの現状報告について : 野生生物のプロジェクト
Author(s)	北條, 元
Citation	北海道大学演習林試験年報, 14, 25-27
Issue Date	1996-09
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/73240
Type	bulletin (article)
File Information	1995_1A-7.pdf



[Instructions for use](#)

I A-7 ライトセンサスの現状報告について — 野生生物のプロジェクト —

天塩地方演習林 北 條 元

はじめに

中川地方演習林では、平成4年よりエゾシカのライトセンサスを実施している。今回は調査の目的、調査方法、調査結果、問題点と今後の課題について報告する。

1. 調査の目的

ライトセンサスの目的は、エゾシカの生息数の動向をモニタリングし、相対的な密度指標から、個体群の回復状況の解明と個体群管理のための基礎資料を得ることである。

2. 調査方法の概要

ライトセンサスの調査方法は、走行する車輛の両側をそれぞれ手持ちのスポットライトで車内から照らし、目撃したエゾシカの数进行カウントする簡単な方法である。春と秋、各2日づつ、年4回行っている。春は、葉が開葉する前の5月中旬～下旬、秋は葉が落葉したあとの10月下旬～11月上旬である。エゾシカは、朝夕の日の出、日の入り前後の薄暗い時間に行動する薄明薄暮型であるので、日没後1時間以内に調査を開始する。2日間の踏査ルートは、出発点と終着点を1日目と2日目で入れ換えて、時刻の差による目撃頭数の差が少なくなるようにしている。

平成4年は、音威子府村音威子府地区、中川町中川地区の両地区で予備調査を実施、翌平成5年春より本調査を開始している。この年の秋からは、中川地区の調査に合わせて、中川町琴平地区でも調査を実施しているが、春と秋それぞれ1日づつである。調査コースは、演習林内及び演習林に隣接している牧草地である。各コースの延長は、音威子府地区が約13km、中川地区が約17km、琴平地区が約5kmである。

3. 調査結果

音威子府、中川、琴平の3地区での目撃箇所は全部で55箇所であった。そのうち牧草地での目撃が全体の66%と高く、次いでササ藪の中20%、造林地11%、林道3%であった。エゾシカは森林の林縁部付近とそれに接続する牧草地に多く生息する。牧草地は調査に際して観察条件が良いため、目撃頭数が多くなると思われる。また、ササ藪での目撃は音威子府地区が6%に対して、中川地区では57%と高く、特にパンケの沢では目撃箇所がササ藪の中に集中していた。中川地区の碎石を行っているパンケの沢と町営牧場を通る林道では、エゾシカは1頭も目撃できなかった。

図-1および図-2は、平成4年から7年までの音威子府地区と中川地区でのエゾシカの日撃頭数を示している。この両地区及び琴平地区で目撃した今までの個体総数は155個体、そのうち識別不明が43個体、28%であった。識別不明を除いた112個体の内訳は、オスの成獣が20%、オスの1本角が4%、メスが63%、子が14%であった。中川地区のパンケの沢ではササ藪での目撃が多く、識別が困難であった。音威子府地区は観察条件等に恵まれ、識別不明は比較的少ないが、平成7年秋の調査では、1箇所に20数頭のエゾシカが出現したため識別できない場合があった。

目撃頭数は年々増加している。春の調査では大きな変化は見れなかったが、音威子府地区の秋の調査ではより顕著に増えている。1日当たり、100km走行当たり換算した目撃頭数を地区別

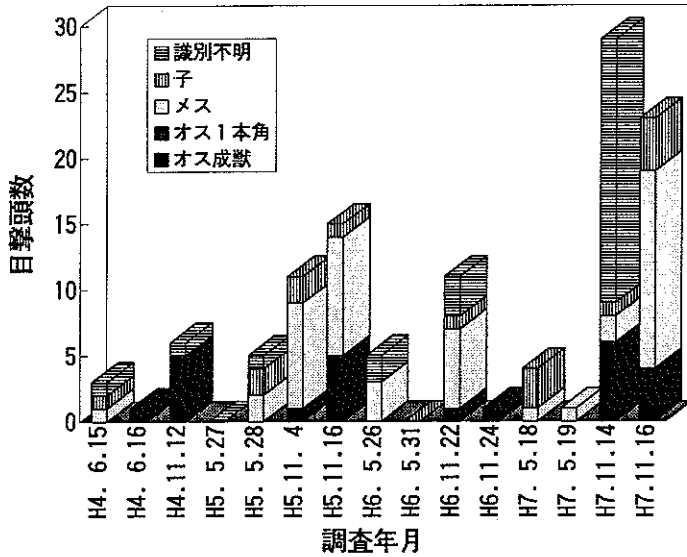


図-1 音威子府地区 目撃頭数 (頭/100km/日)

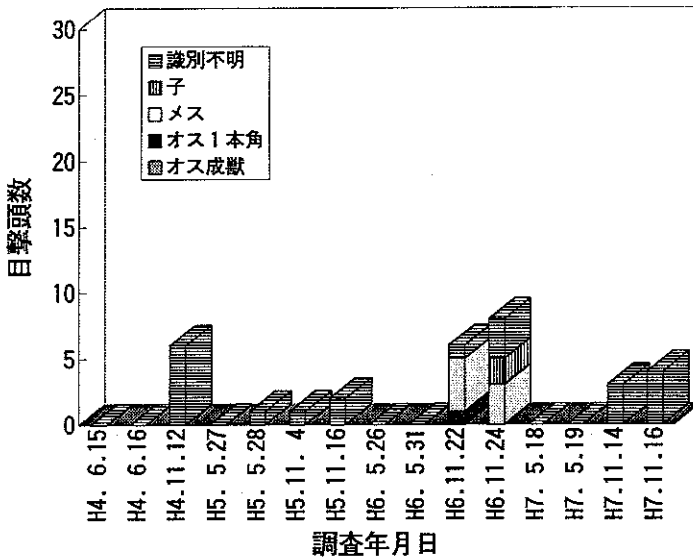


図-2 中川地区 目撃頭数 (頭/100km/日)

に示した(図-3)。最高値は音威子府地区の223頭(平成7年11月14日調査)であった。また琴平地区は197頭(平成7年11月29日調査)を記録した。琴平地区は過去に5回、ライトセンサスを行っているが、いずれもエゾシカを目撃しているのに対し、他の地区ではエゾシカを目撃できなかった日が、音威子府地区が15回の調査中2回、中川地区は15回の調査中6回であった。釧路支庁管内音別町の平成3年の調査では平均731頭(最小726頭-最高739頭)/100km・日、十勝支庁管内足寄町の同年の調査では平均619頭(最小497頭-最高713頭)/100km・日であった。¹⁾こ

のことから道東と比較して中川地方演習林とその周辺では生息頭数が少ない。

なおライトセンサス中に見かけたエゾシカ以外の動物ではキタキツネ、ユキウサギが最も多く、他にはタヌキ、フクロウ、テン、エゾライチョウ、モモンガ、ヤマシギ、アオサギ等も目撃した。

4. 問題点及び今後の課題

以上、述べたことから、エゾシカ・ライトセンサスの問題点と今後の課題をあげると次のとおりである。

- ① 調査コース（箇所）の検討。中川地区では過去4年間エゾシカをまったく目撃できなかった箇所がある。しかし、調査の継続性という観点から、路線を変更しない方が良いと考える。また、音威子府村箆島地区では平成7年には、農作物に大被害を受けた。今後はこのような箇所が増加すると思われるので、調査コースに加えることも検討中である。
- ② 調査時期の問題。現在、春の調査は、葉が開葉する前に実施できればより良いが、林道に雪が残っているために調査できないのが現状である。
- ③ 調査回数の問題。現在は春、秋各2日ずつ行っているが、この調査回数は少ないと考えられる。天候等により、1日目と2日目で目撃頭数が大きく違う場合、データの信頼性が低い。調査回数についても再検討すべきである。

おわりに

従来はライトセンサス法によりエゾシカの生息数などについて調査を重ねてきたが、今後は、森林被害の実態調査や越冬地の実態調査等も併せて行い、エゾシカの生息状況に関する基礎資料をより充実する必要があると思われる。

参考文献

- 1) 梶 光一：スポットライトセンサス法によるエゾシカの生息数調査について（資料），1992。

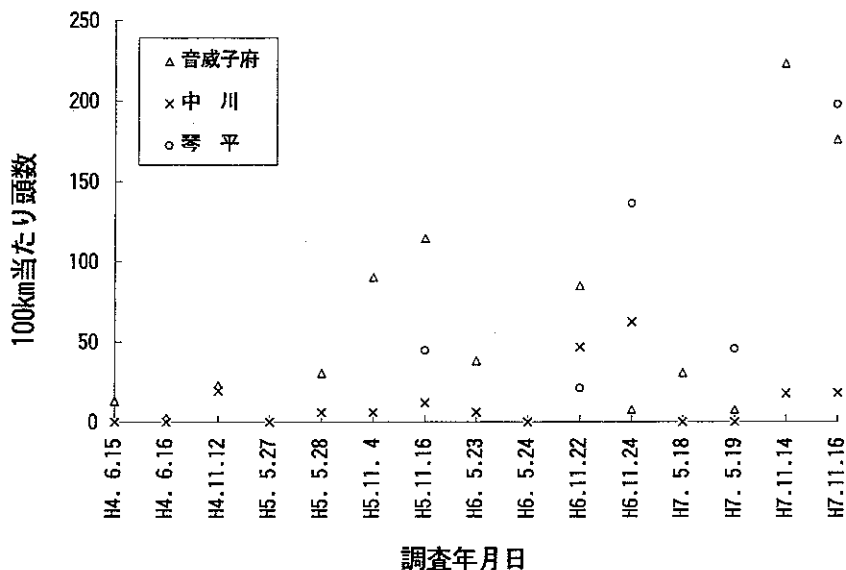


図-3 地区別100km当り頭数の推移